

平成24年度 第4回庄内町行政改革推進委員会 会議録

- 1 開催日時 平成25年3月26日（火） 18時30分～20時30分
- 2 開催場所 庄内町役場 第一会議室
- 3 出席委員 岡部一宏、佐藤正義、志田重一、清野美子、高梨美代子、廣田幸記
- 4 欠席委員 大瀧国夫、小林義廣、齋藤ゆう子、和田明子
- 5 事務局等 情報発信課長 企画係長、清野主任、佐々木主事

○ 辞令交付 (18:30)

委員を代表して出席委員のうち委員名簿先頭の岡部委員に辞令交付

1 開 会

2 あいさつ 情報発信課長

3 委員自己紹介

4 委員長及び副委員長の選出

委員長に佐藤正義委員、副委員長に大瀧国夫委員を選出し決定

5 委員長あいさつ

町の行政運営に対して、町民としての感覚で判断をしていきたい。また、個人の経験も物差しとして委員の皆さんからもご協力をいただきながら進めていきたいのでどうぞよろしくお願ひします。

6 説 明

(1) 庄内町行政改革推進委員会の役割について

(2) 事務事業評価について

【事務局】資料1～6の説明

7 協 議

(1) 平成25年度事務事業評価における第3次評価について

【委員長】事務局説明で不明なところや質問等あればお願ひしたい。

【委 員】平成24年度事業で順調に進んでいるところとそうでないところがある。評価シートの見直しも検討されているようなので、評価結果が目で見ても分かりやすくなるようお願ひしたい。

【委員長】民間の場合は、結果がすぐ数字に表れるが、町の仕事は数値に表わせないこともある。講演会など入場者数は把握できても、入場者の感じ方までは分からないし、数値だけで判断できるものでもない。事業結果に対して町民の目から見てもうなのか、というのが第三次評価であろう。事務局からあったように、全ての事業を見る訳にはいかないので、1つの基準を設けて事業をピックアップしてはどうか。

【委 員】資料1に対しての質問だが、3億円削減というのは、平成23年度と比較して平成24年度での削減目標か。

- 【事務局】平成 23 年度決算額と比較して平成 28 年度予算額で 3 億円削減を目標にしている。1 年間でどれくらい削減するというものではなく段々と減らしていくよう取組んでいくものである。
- 【委員】単年度ごとの精査は行わないのか。
- 【事務局】行わない。5 年経過後の削減が目標である。
- 【委員】アクションの意味は。1 週間、1 ヶ月、1 年などで評価して、数値目標に対する検証を行うべきではないか。目標をだけを掲げて終わるのではないか。
- 【事務局】重点プロジェクトの取組みは 5 年スパンで目標を掲げて最終的に 3 億円削減を目指すものである。事務事業評価は単年度ごとの評価を行うものなので別である。
- 【委員】事務事業評価で、達成できていなかった場合はどのように対応するのか。
- 【事務局】事務事業評価には、前回評価に対して 1 年間どのようなことをしてきたかを記入してもらう予定である。
- 【委員】是非、対応結果については記入していただきたい。
- 【委員】数値以外の部分も評価してほしい。
- 【事務局】平成 28 年度まで 3 億円削減のために重点プロジェクト実施計画の中では、事務事業の見直しや経費削減、歳入を重視した取組みなどのプログラムを組み合わせることで目標を達成しようとするものである。歳入重視ということで受益者負担の適正化などもあるが、住民サービスへ直結することなので、すぐに改善できるものと改善まで時間のかかるものがある。また、建物の廃止で削減できるものもある。何れにしても住民との合意形成を図り進めていくこととなる。そのため、スピード感がないと思われるところでもある。
- 【委員長】3 億円削減という言葉が一人歩きするのが怖い。経営という観点からすれば、削減は必要だろうが、減らせば良いというものではない。住民サービスや福祉が後退しないようにしなければならない。
- 【事務局】合併による優遇措置が平成 33 年度で終わることにより、その時点で平成 23 年度決算と比較して 7 億円の削減が求められている。平成 33 年度まで段階的に削減するために、まずは平成 28 年度まで 3 億円削減を目指そうというものである。
- 【委員】目標としては必要なことだが、現実問題として職員定数が減少してきているものの、逆に臨時職員が増加するなど矛盾していることもある。時代の必要性に応じて充分考えて対処していかなければならない。また、累積的な町債もあり、将来に亘っての返済がある。少子高齢化の中で、現在のことでなく将来的に考える必要がある。
- 【事務局】町が 1 年通して行っている事業に対して、このまま進めていいか、発展して行った方がいいかなどもご意見をいただきたい。この委員会で対象とする事業をどのようにピックアップしたらよろしいでしょうか。
- 【事務局】これまでだと約 20 事業を第三次評価対象としていた。委員の皆さんからこのような事業を対象にしたいなどございませんか。
- 【委員】グリーンツーリズムや北月山荘でも山ぶどうの会の活動に関わってきたが、森林浴など同じような内容の事業が、役場の様々な課でバラバラに実施されていると感じた。各課の同じような事業の調整を図って統合するなどすれば事業規模を大きくして実施することも可能なのではないか。役場内での横のつながりがいいのではないか。同じような目的で実施している事業がないか調べてほしい。また、グリーンツーリズムに関しては、商工観光課で所管しているが、農業の視点もあるので、農・商・工の観点も必要だと思う。
- 【事務局】他の課で同じようなことをやっていないか分からないところがあるので、良い視点だと思う。
- 【委員長】今年度の第三次評価では、将来的に大幅な見直しが必要であるとされた 19 事業について審議したが、それについては如何か。
- 【事務局】各委員の審議したい事業について希望をきいて評価対象としていたこともあった。
- 【事務局】各委員から複数事業を上げていただいて、資料を準備することは可能だが、委員の皆さんの負担も増すと思われる。また資料を見ただけでは分からないところもあるので、事業所管課

からの説明も行っている。グリーンツーリズムなど各委員の関心の高い分野について評価対象とすることも良いのではないか。

【委員】子育てのことで保健福祉課と関わっているが、今は低年齢の子どもを預ける家庭が増えてきている。以前は保育所に入る要件は、保育に欠ける子であったが、保育を必要とする子に変わった。子育てする中で親がパニックになって虐待に繋がることもある。親が働かないと保育所に入れないというのではなく、入所させたい子どもを受け入れて待機児童をなくしていかなければならない。余目保育所は施設の老朽化や狭さなど課題があるようだ。すくすく保育園では200名の子どもを受け入れ、その為の職員も確保して対応している。民間保育園といっても福祉であり、町と一体になって地域に根ざして町の考えで動いている。民間で施設を大きく建てるとなると、国1/4、県1/4、町1/4の補助が受けられ、自己負担が1/4である。町の場合は保育に従事する臨時職員が増加しているようだが、民間保育園では殆どが正職員で町民の採用に努めている。人件費など色々考えるなら民間委託などもあり得るのではないか。町では、幼稚園は町で運営していくが、保育園については今後の検討していく考えのようである。

【委員長】今の話しだと実施したことに対して、推進委員会として審議するというよりは、将来に向けての話しになるようだが。

【委員】削減目標などあるので、今後の方向性に関する考え方もあって良いのではないか。

【委員長】そのような考え方も良いことだと思う。保育園、幼稚園、認定子ども園などあり、町では認定子ども園の考えはないようだが、それで良いのかということもある。

第三次評価の対象事業の選定については、まず1つ目として昨年と同じに第二次評価の中から観点としては大幅な見直しとなった事業を対象とし、2つ目として只今あったような話で委員皆さんから事業を見てもらった中から審議したい事業を出していただき、その中からの事業選択については、委員長と事務局との協議に一任していただきたいと思う。但し、第1回目の推進委員会には、どのような事業が希望として出されたか周知することとしたい。

【事務局】第三次評価対象事業としては、今年度実施したよう選択方法による事業に加え、委員が関心を持たれている事業について委員長と事務局で調整して皆さんにお諮りすることとします。

【委員長】資料2に平成25年度の評価方法の見直しなどあるが、更に強化すべき点などないか。

【事務局】見直しについては、あくまでも案である。財政係と相談して評価結果を予算編成に活かせるようにしたいと考えている。

【委員長】皆さんにお願いしたいが、次回開催が7月頃になると思うので自分の身の回りで調べたい事などあったら事務局へ伝えていただきたい。事務局も関係資料等あれば周知していただきたい。実際の作業は3～4回だと思うので、事前に資料に目を通して時間を有効に使っていきたい。皆さんのご協力をお願いします。

(2) その他

特になし

8 その他

【事務局】開催時間については、委員の皆様の希望に沿いたい。今回のように平日の夜間開催でよろしいか。

【委員全員】異議なし

9 閉会

(20:30)